

漁場保全対策推進事業

好適な漁場環境の  
維持・達成をめざして

漁場保全対策推進事業についての  
お問い合わせ先

水産庁研究部 漁場保全課 指導班

〒100 東京都千代田区霞ヶ関1-2-1  
電話 03-3502-8111  
内線 7414

(パンフレット作成受託者)

社団法人 日本水産資源保護協会  
〒104 東京都中央区豊海町4-18  
電話 03-3534-0681

1997. 3 発行

漁場保全対策推進事業

好適な漁場環境の  
維持・達成をめざして



水産庁



# 漁場保全対策推進事業とは

国際海洋法条約の発効等、昨今の国際的・社会的情勢は、周辺水域をより一層積極的に活用していくことを求めています。このため、我々水産関係者も「良好な漁場環境の維持・達成」、つまり漁場環境の保全のための行動を、さらに強化する必要にせまられています。

この様な情勢を踏まえ、漁場保全対策推進事業では「漁獲対象生物にとって良好な漁場環境」の維持・達成を図るため、我が国の全都道府県が参加して、統一された手法で各種の漁場環境調査を実施します。この事業による調査結果は、各都道府県の地先の漁場環境を保全するための基礎データとしての活用が期待されています。



漁場調査

1

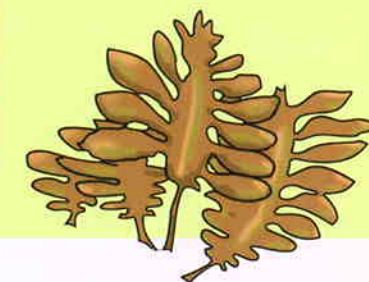
水質調査



漁場調査

2

藻場調査



漁場調査

3

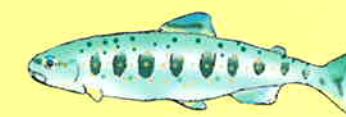
底質・ベントス調査



漁場調査

4

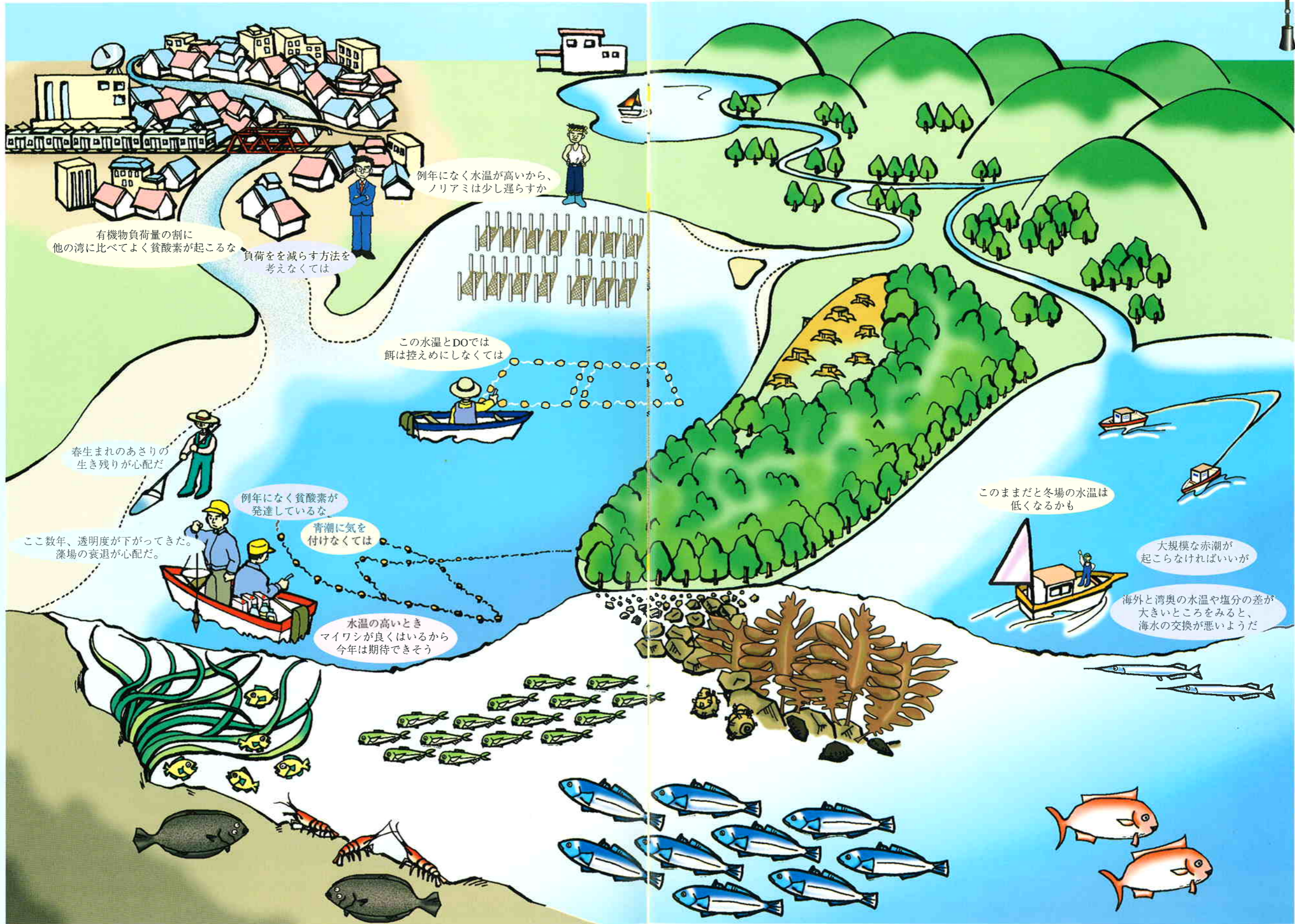
河川・湖沼調査





# 水質調査

水質はその水域の特性を表すだけでなく、魚介類の生息に好適か否かを判断する主要な指標です。



有機物負荷量の割に他の湾に比べてよく貧酸素が起こるな  
負荷を減らす方法を考えなくては

例年になく水温が高いから、ノリアミは少し遅らすか

この水温とDOでは餌は控えめにしなくては

春生まれのあさりの生き残りが心配だ

例年になく貧酸素が発達しているな

ここ数年、透明度が下がってきた。藻場の衰退が心配だ。

青潮に気を付けなくては

水温の高いときマイワシが良くはいるから今年は期待できそう

このままだと冬場の水温は低くなるかも

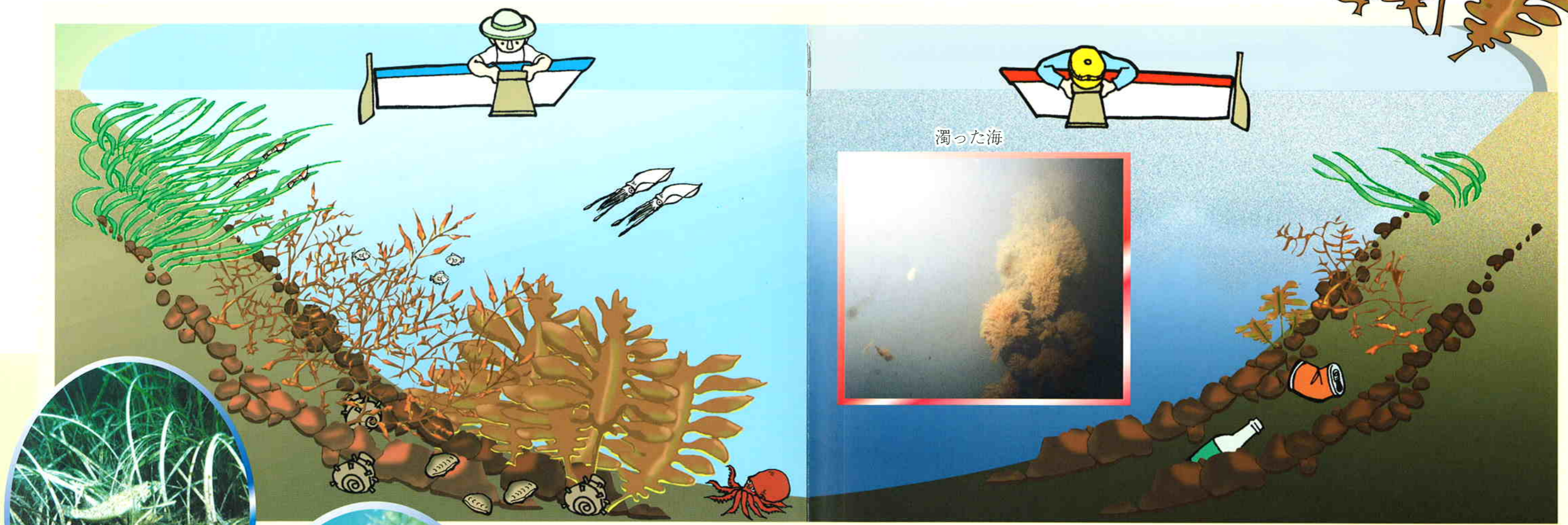
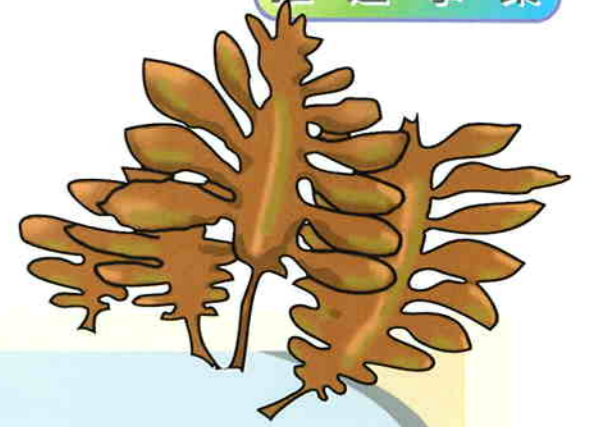
大規模な赤潮が起これなければいいが

海外と湾奥の水温や塩分の差が大きいところをみると、海水の交換が悪いようだ



# 藻場調査

藻場は海況の変動や汚染などに敏感に反応して分布や構成が変わる、漁場環境のバロメーターです。



アマモ



ガラモ



カジメ



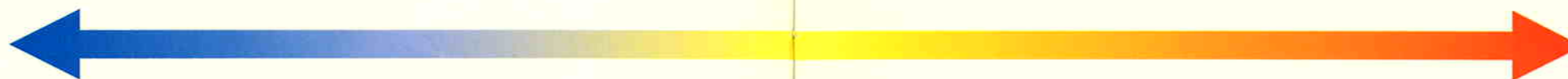
磯焼け状態の海底（サンゴモ平原）(写真：谷口和也)



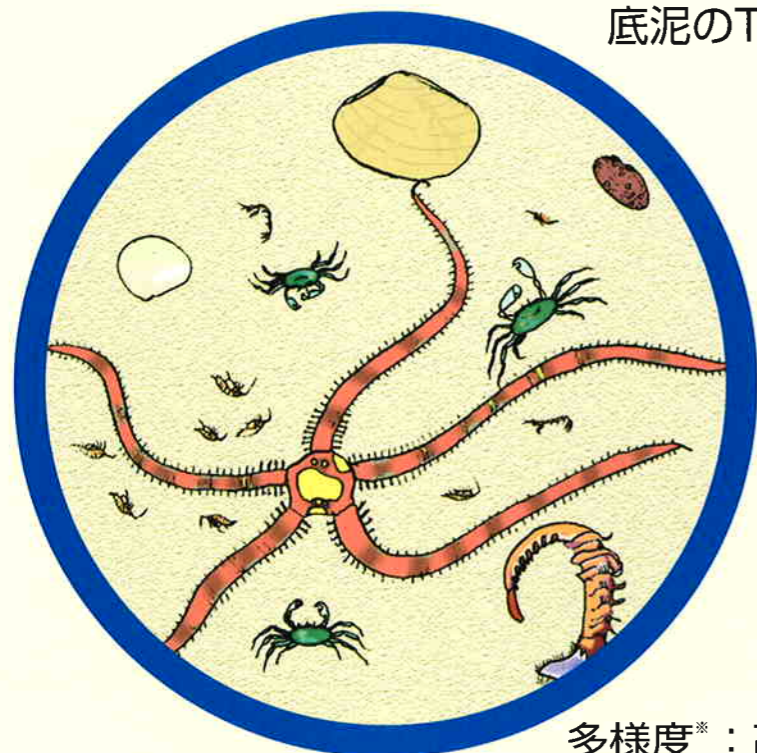
# 底質・ベントス調査



底質はその水域の長期的な環境の変動を反映しています。  
また、ベントスの種類や組成は様々な環境要因の総合的な指標です。



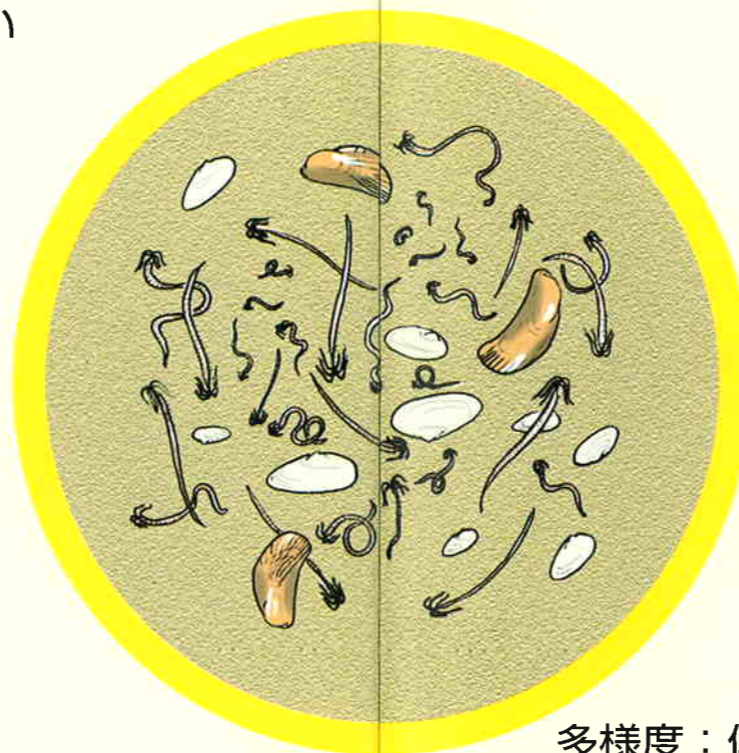
DO\*濃度：高い  
底泥の有機物質：少ない  
底泥のTS\*量：少ない



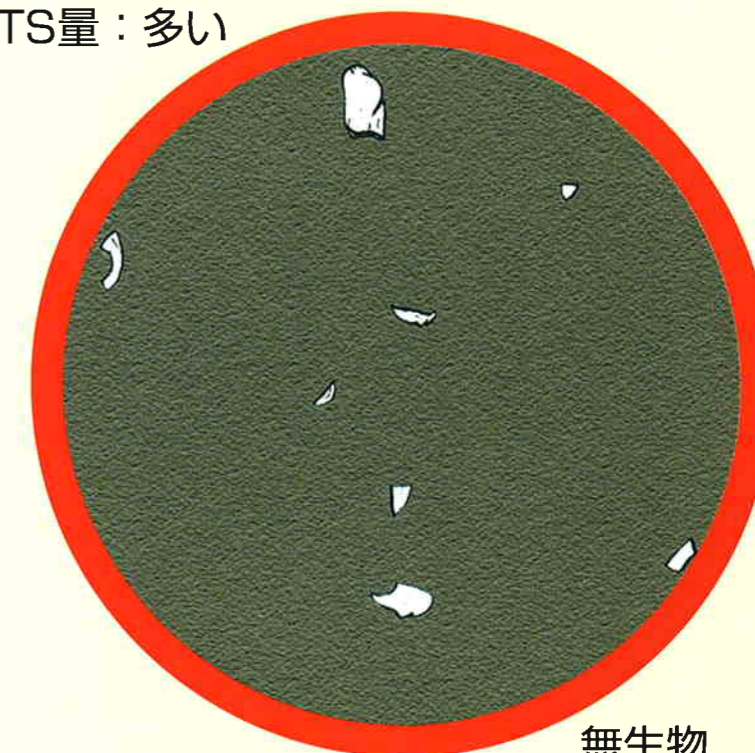
多様度\*：高い  
甲殻類の割合：高い  
高年齢の個体：多い



DO濃度：低い  
底泥の有機物質：多い  
底泥のTS量：多い



多様度：低い  
多毛類の割合：高い  
小さな個体：多い



無生物  
〔海の砂漠〕

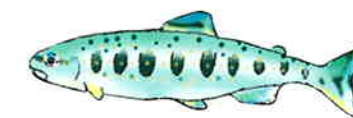


※ DO：溶存酸素  
TS：全硫化物  
多様度：生物の豊富さの指標



# 河川・湖沼調査

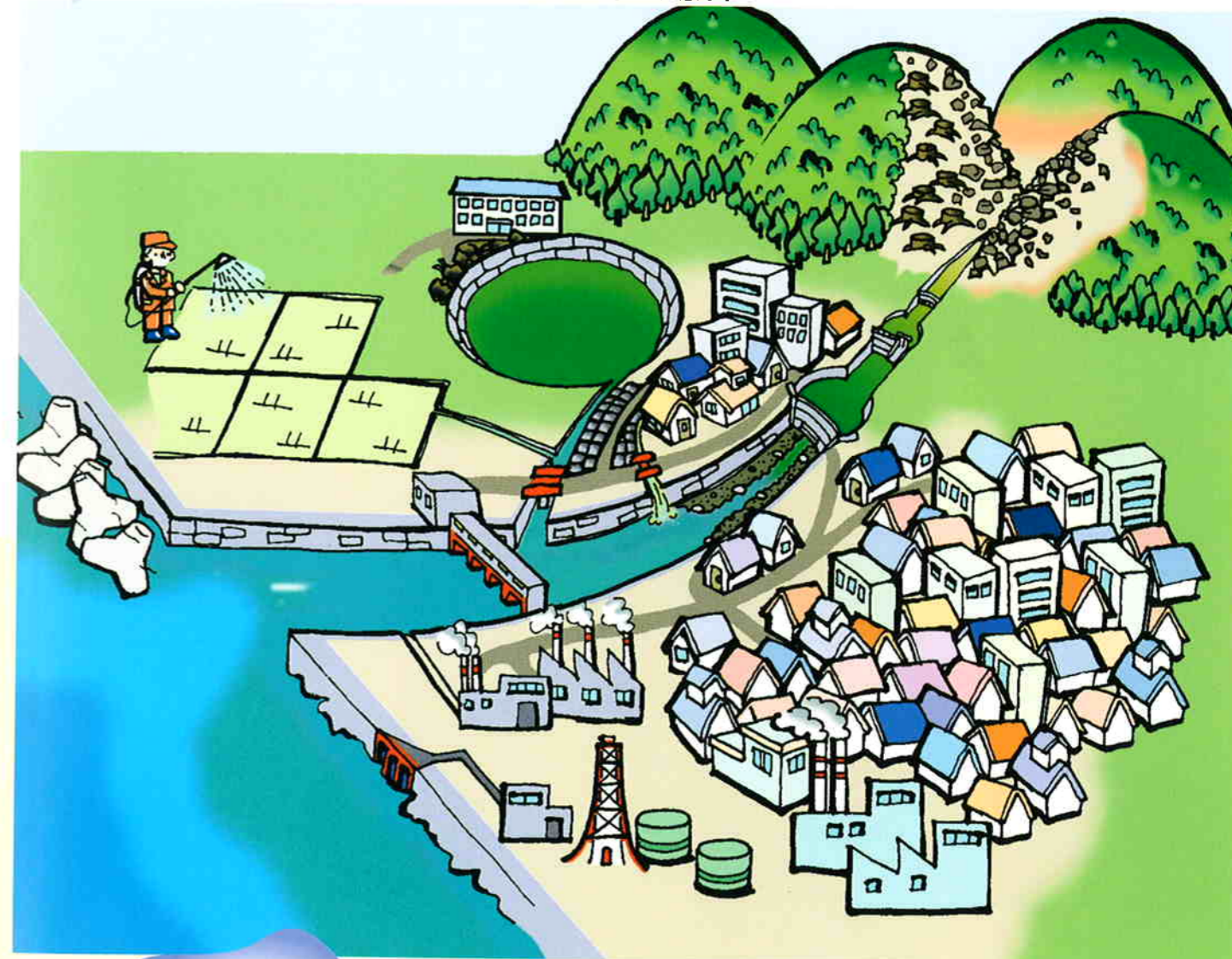
漁場保全対策推進事業では海だけでなく、河川や湖沼についても水域ごとの特性や魚介類の生息環境の移り変わりを調べます。



## ▶ 自然状態の河川・湖沼



## ▶ 人間活動により変化した河川・湖沼



豊富な  
植物相  
底生動物相  
魚類相

物理・化学的  
負荷

生物相  
の変化

生物モニタリング

人間活動に伴う様々な物理・化学的負荷の魚類資源への影響評価が必要